

いこいの村 しまざたみ子

題字 梅の木寮（ユニット型）

2013年（平成25年）9月20日発行

第376号

発行責任者 いこいの村聴覚言語障害センター
所長 柴田 浩志
編集 いこいの村編集委員会
〒629-1242
綾部市十倉名畠町久瀬谷2番地
TEL (0773) 46-0101
FAX (0773) 46-0610
<http://www.kyoto-chogen.or.jp/ikoi>

第22回 全国盲ろう者大会

主催 / 社会福祉法人 全国盲ろう者協会 後援 / 厚生労働省 千葉県 千葉市



このスクリーンには文字による情報が表示されます。
このスクリーンには文字による情報が表示されます。

再会、出会い。そしてふれあい

会場近くのティーズーランドでは「ピッキーマウス」と「うさぎ」など、盲ろう者と触れあえるアシスタントキャラクターたちが登場。

初めて出会った仲間と、ジャンケンを使ったゲームでおおいにふれあいました

開催地、千葉県のゆるきゃら「チーバくん」にも出会いました

8月23日～25日の3日間
千葉県幕張で『全国盲ろう者大会』が開催され、全国から盲ろう者とガイドヘルパー、手話通訳などに関わる方々、約1000人が集いました。いこいの村からも生活者（利用者）一人が参加しました。

盲（視覚障害）、ろう（聴覚障害）といっても障害の程度はさまざま。触手話や手話通訳、要約筆記など、いろいろな方法で情報を伝えようとは会場は熱気に満ちていました。

そんな中、久しぶりに友人と再会しあいの近況を伝えたり、新しい出会いもあつたりと、それはまさにふれあいの時間でした。

しかし、一人ぼっちの盲ろう者が全国にはまだまだ多数。そんな仲間をなくそつと「盲ろう者の会」を立ち上げて全国へ拡げていこうと確認し合いました。

（梅の木寮 藤田一美子）

『近さ 親しさ 心強さ』を活かして

いこいの村・とくら福祉センターのこれから

〈近くなつて『気軽』に、便利に〉

「ひとりで寂しいし、最近、膝が痛いんやけど、いこいに来ました。もうひりひりたが、ましこなるやうか」

「いこいならバス停も近いし、いつも買っている紙パンツや、持つて帰るものも楽です」

5月に、ティーサービスを始め、いこいの村の在宅高齢福祉を担う事業所が「とくら福祉センター」として移転・開所してからの嬉しい変化について紹介します。



いこいの村・とくら福祉センター

売していましたが、買い物に不便な土地がらなので、日用品や食品も購入できるようになりました。

その夏、体調を崩したことから服薬確認と食生活を改善し、体調を整えようとヘルパーと一緒に配食サービスを利用し始めました。

買い物は、以前は一人で市街に買いに出でおられましたが、支払いが上手くできなくなり、息子さんが買って届けられることが多くなつていきました。

移転後、ヘルパーが訪問時に、家で足りない物を本人と一緒に考え、メモにして、ティーサービスで買うようにしました。



出張販売でのお買い物

行ってみたい」と言われ、人ととの交流を通して認知症の進行を予防しようと利用を始められました。

買い物、体調を崩したこと

か」と職員が声を掛けます。買いたい物をヘルパーが、本人と相談の上、ティーサービス職員に伝えておき、一緒に買つようになりました。

今、国では、高齢者の尊厳の保持と自立支援を目的に、住み慣れた地域で自分らしい暮らしが人生の最期まで続けられるよう『地域包括ケアシステム』の構築が進められています。

いこいの村・とくら福祉センターは、『近さ 親しさ 心強さ』を活かして、本人の生活を丸ごとどうぞ、本人を中心には家族や介護サービス、医療、時には商店などの地域の社会資源も活用して暮らすを

重要な物を伝え、本人が見て、ほしい物が買えるので、とても喜ばれています。玉子や牛乳など生鮮食品も購入され、ティーサービスセンターで保管しておき、送迎時に「悪くならないように、すぐに冷蔵庫に入れましょうね」と声を掛けています。

（ティーサービスでお買い物）

△さん（89歳）は、2年ほど前、薬の飲み忘れや炊飯器が使いこなせないなどの様子があり、この自身の希望で認知症外来を受診しアルツハイマ

ー型認知症と診断されました。昨年の春、「ティーサービスに

近隣の商店に販売に来てもらっています。以前から栗の木

寮の石窯パンや野菜などは販

売しています。以前から栗の木

寮の石窯パンや野菜などは販

売しています。以前から栗の木

寮の石窯パンや野菜などは販

売しています。以前から栗の木

寮の石窯パンや野菜などは販

売しています。以前から栗の木

寮の石窯パンや野菜などは販

売しています。以前から栗の木

寮の石窯パンや野菜などは販

